

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1989年6月24日、東京都生まれ。3歳のとき、越谷市へ転入。小学校入学前から、柔志館越谷クラブ(当時は関根道場)にて柔道を始める。現在、埼玉栄高校在学中。女子柔道部の主将を務める。2007年3月、第29回全国高等学校選手権大会にて団体優勝。5月、関東高校予選柔道57キログラム級2年連続優勝、フランス国際ジュニア大会57キログラム級優勝。6月、関東高校柔道大会女子団体戦優勝。160cm、57kg。

初めての国際大会で飾った貴重な「優勝」

「初の国際大会ということ、今回は学校だけでなく、地域の方々の応援や期待も大きく、やはり緊張感がありました。自分では、初めての国際大会なので、最初は思い切つてやってくればいいのか、という気持ちだったのですが、たくさんの方々に応援していただき、やはり優勝して帰ってきたい、と思うようになりました」。初の国際大会でプレッシャーを克服して優勝した大友さんに、小学校入学前から通っていた柔道道場、柔志館越谷クラブ(当時は関根道場)での思い出を聞いてみました。

けいこの前に、グラウンドを10〜20周、走っていました

「柔道のけいこの前に、小学校のグラウンドを10〜20周、走っていたのがに残っています。辛かったけれど体力のついていくのがわかったので、高学年のころには走るのが楽しかったことを覚えています」。姉に誘われて始めた柔道は結局、大友さんだけが続けることに。

その理由は、「負けたときに悔しい、という気持ちがありました。小学生のころは、友達と遊ぶ時間が少なくて辛かった時期がありました。試合は好きだったので、やめることはできませんでした。やはり、柔道が好きだったのだと思います」。また「小学6年生のころの友達は、いつも応援してくれ励ましてくれる大切な存在です」と語る大友さんの越谷市での小学校生活は、現在を強く優しく支える原点かもしれません。

あこがれの高校、埼玉栄高校へ

勝ったときの喜びが大きく柔道を通じていた小学校時代。部活後も熱心に道場に通った中学校時代。そして、幼いころから憧れていた埼玉栄高校へ。「出身道場の先輩も多く、小さいころから、この高校に入るのを目標にしていました」。

現在、土日も練習があり「休みは3カ月に1回あるかないか」という多忙な大友さんに、柔道をやめたくなることはありませんか?と聞いてみると、「思ったような自分の柔道ができなくて、イヤになること

もありました。自分の柔道とは、自分の課題とか、きれいに技が入ったり、うまく投げられたり、ということ。でも、柔道をやめたいと思うことはありません。わたしにとって柔道とは、当たり前前に『ある』。たぶん自分の人生のようなもので、形が変わっても、ずっとやっていきたいと思っています」。と答えてくれました。

心に残っている言葉は、「練習は裏切らない」

誰かに言われて覚えている言葉は?との問いには、「練習は裏切らない、努力は裏切らない、と切らない、という高校の先輩の言葉です。練習のときに、この言葉を思い出しています」。

また、今年3月、全国高校選手権大会決勝できん差の団体優勝を成し遂げたことについて、「自分たちのチームは、ズバ抜けて強い、絶対というエースはいない

と思うんですよ。でも、一人ひとり特徴のある柔道をしていて、全員で力をあわせれば勝てる柔道なので、それを証明できた試合だったと思います。昨日(6月3日)は関東高校柔道大会があったのですが、女子の団体戦では初めて優勝できたんですよ。それも、チーム力だったと思います」。

柔道の魅力は、小さい相手が大きな相手に力だけでなく、技術や動きで勝つことです

力は何という問いへの答えはこれでした。そして、将来の展望については「まず、ジュニアの中で一番になって、将来はシニアの大会でも上位に入れるようになりたい。そのために体力・技術をもっと身につけ、メンタル面を一層強化していきたいと思っています。来年の世界ジュニア大会も、今後の大きな目標です」。

試合に勝つこと以外の柔道の魅力

練習は裏切らない。努力は裏切らない。この言葉と共に練習に励み、初の国際大会で優勝を飾った18歳



女子柔道 大友真貴子さん

2007年5月、フランスのリヨンで行われた柔道フランス国際ジュニア大会(57キログラム級)で優勝した大友真貴子さんに、国際大会での感想や柔道にける思い、越谷市での思い出などを聞きました。